

炭素繊維入り無機系防錆プライマー リックファイバー

pH 値 約 12.5 の強アルカリ性塗膜で赤錆を不働態化し、鉄表面に安定した不導体被膜を形成。錆の要因となる水分・酸素の供給を遮断するため、長期的に鋼材の腐食・再腐食を抑制。

案 件 名 | ミクニ伊豆高原
 施 工 年 月 | 2019 年 5 月 竣 工
 仕 様 | 新設 既設 | 標準 重防食

目の前に広がる太平洋と木々に囲まれた立地で、建物は無垢の木材と鉄骨の組合せからなる。海からの飛来塩分や木々からの水分により、鋼材には過酷な発錆しやすい環境であるため新設での防錆対策を施す。設計：株式会社 隈研吾建築都市設計事務所



▲ 森の一面にそびえたつ。



▲ 腐食の一因となる水分子*に覆われても、鋼材への水の到達をリックファイバーがブロック。



▲ 美観を保つ。無垢木材が鋼材の錆で変色するのを防ぐ。



▲ 錆びやすい支柱の根元は重防食仕様。



▲ デッキ上面からの雨水が流れる。下面の防錆対策も抜かりなく。

* 肉眼では見えない薄い水膜のこと。

製造元



アーティスティックデコール株式会社

〒444-0888 愛知県豊橋市駅前大通 3-81-2

TEL : 0532-55-3429

炭素繊維入り無機系防錆プライマー リックファイバー

pH 値 約 12.5 の強アルカリ性塗膜で赤錆を不働態化し、鉄表面に安定した不導体被膜を形成。錆の要因となる水分・酸素の供給を遮断するため、長期的に鋼材の腐食・再腐食を抑制。

案件名 | 導水路ゲート
 施工年月 | 2022年2月
 仕様 | 新設 既設 | 標準 重防食

水道用水・農業用水・工業用水に使われる水が流れる導水路のゲート。防錆効果のほか、絶え間なく流れる水や水と一緒に流れてくる小枝などによる継続的な衝撃にも、強靱な塗膜で鋼構造物を保護。



▲ 自動水位調整機。施工後。



◀▼ 施工前。
 チョーキング。塗装による保護機能が消失。出隅・ボルト部分は特に錆びやすい箇所。



▲ 水流に加え、流れてくる葉などの継続的な衝撃に耐えるリックファイバーには、炭素繊維（カーボンファイバー）が含まれる。



▲ 藻の付着・堆積により、鋼材表面と藻のすきま内で乾湿を繰り返す、大きく腐食。施工前。

炭素繊維入り無機系防錆プライマー リックファイバー

pH 値 約 12.5 の強アルカリ性塗膜で赤錆を不働態化し、鉄表面に安定した不導体被膜を形成。錆の要因となる水分・酸素の供給を遮断するため、長期的に鋼材の腐食・再腐食を抑制。

案件名 | 機械室
 施工年月 | 2018年7月
 仕様 | 新設 既設 | 標準 重防食

定期的な防錆補修塗装が行われてきた機械室。しかし、塗替え時の素地調整が不十分なまま一般的な錆止めペイント塗装していたため、毎回施工後わずか数か月での再発錆を繰り返す。すぐの塗替えには足場を含めたコスト等が非合理的であり、全面的な赤さびの成長へと繋がる。



▲ 施工前。塗装の保護機能が失われ、塗膜下・鋼材面に水の浸入が繰り返される。



▲ 2・3種混合ケレンでの素地調整後。リックファイバーはこの状態で塗装可能。



▲ (左・中) 剥離した塗膜。塗膜裏面は錆。(右) 鋼材面の小さな無数の穴からも、減肉したことが窺える。



▲ 施工後。水性トップコート使用。3年経過後も良好な状態を保つ。

炭素繊維入り無機系防錆プライマー リックファイバー

pH 値 約 12.5 の強アルカリ性塗膜で赤錆を不働態化し、鉄表面に安定した不導体被膜を形成。錆の要因となる水分・酸素の供給を遮断するため、長期的に鋼材の腐食・再腐食を抑制。

案件名 | 栈橋
 施工年月 | 2022年3月
 仕様 | 新設 既設 | 標準 重防食

従来の防錆補修仕様は、素地調整：1種ケレン、プライマー、超厚膜エポキシ塗料。全体的に発錆しており、スプラッシュゾーンや潮風の影響を受けやすい箇所は顕著に錆びている。重防食仕様では特に、リックファイバーの塗膜厚が重要なポイントとなる。



▲ 施工後全景。



▲ 施工前。(上) 溶接補修内部は腐食し塗装の割れが発生。溶接部は特に電位差が生じやすく錆びやすい。潮風に晒される過酷な環境。(下) 鋼材はミルフィーユ状に剥離。



▲ 施工後。



▲ 施工後。

炭素繊維入り無機系防錆プライマー リックファイバー

pH 値約 12.5 の強アルカリ性塗膜で赤錆を不働態化し、鉄表面に安定した不導体被膜を形成。錆の要因となる水分・酸素の供給を遮断するため、長期的に鋼材の腐食・再腐食を抑制。

案件名 | 水タンク
 施工年月 | 2021年3月
 仕様 | 新設 既設 | 標準 重防食

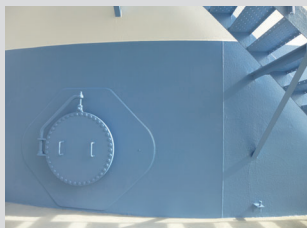
容量 7000KL、高さ約 20m、内径約 22m のタンク。溶接ラインに沿って腐食が見られる。腐食の度合いに応じてリックファイバーの塗膜厚を調整することで、再腐食を抑制。水性のプライマーであるため、地球環境・作業者に優しく、鋼構造物の延命が実現。



▲ 施工前。チョーキング・発錆。



▲ 素地調整後。溶接部は特に電位差が生じやすく錆びやすい。



▲ 施工後。1年以上経過後も良好。



▲ 施工後。トップコートは水性を使用。